

令和元年度 農林水産祭参加 全国肉用牛枝肉共励会

農林水産省大臣賞に宮城県・川口ファーム 殿

枝肉単価 27,001 円で(株)ふじなわ が落札

令和元度全国肉用牛枝肉共励会が、10月29日から11月1日までの4日間にわたり、東京食肉市場に出荷実績を持つ27都道府県より選抜された第一部 乳用去勢牛及び交雑去勢牛74頭、第二部 和牛去勢牛262頭、第三部 和牛牝牛164頭の合計500頭で開催された。名誉賞に輝いた第二部 和牛去勢牛の281号は、宮城県から出品された(株)川口ファーム殿の出品牛で、父が「第一花園」、母の父が「安福久」で、月齢31ヶ月、生体重814kg、枝肉重量603kg、歩留74.1%、格付A5(BMSNo.12)、ロース芯の面積が118cm²、バラの厚み9.0cm、皮下脂肪の厚さ1.8cmで、全体に肉付き、均称の素晴らしい体型で、モモのサシ抜けが良好で、ロース芯が充実し、肉色・光沢に優れた無駄のない正肉歩留まりの良い、名誉賞に相応しい枝肉でありました。枝肉単価は過去最高の27,001円で、(株)ふじなわにより落札されました。名誉賞に輝いた(株)川口ファーム殿は、農林水産大臣賞、東京都都知事賞を始め、数々の名誉ある褒賞を受賞されました。また、各部の最優秀賞は、第一部 青森県・坂田弘志殿の68号牛が、枝肉単価2,302円で小川畜産興業(株)、第二部 宮城県・(株)川村ファーム殿の283号牛が枝肉単価10,267円で(株)丸富商店、第三部 鳥取県・田村正道殿の554号牛が14,010円で(株)吉澤畜産により購買されました。部門別の成績は下記の通りです。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第1部乳用・交雑去勢	74	950	1106	814	615	717	529	64.7	70.9	61.0	1,569	2,302	1,232
第2部和牛去勢	262	853	1072	711	584	738	475	68.5	74.1	61.7	2,779	27,001	1,810
第3部和牛牝	164	901	901	553	479	615	360	67.3	71.7	62.3	2,885	14,010	1,201

本共励会の出品規則第6条「出品牛の資格」により、和牛去勢の部29頭、和牛牝の部で4頭、第13条「事故の責任」により乳用・交雑去勢牛で1頭の合計34頭が審査対象外となり、審査の対象となったのは466頭でありました。

大動物事業部

<10月の相場動向>

10月の牛枝肉相場は、和牛去勢はA5が前月比55円安の2,690円(前年同月比199円安)、同A4が51円安の2,380円(同164円安)、同A3が16円安の2,180円(同121円安)、同A2が41円安の1,932円(同216円安)となり、交雑種去勢はB4が同37円安の1,728円(同26円安)、B3が同45円安の1,603円(同7円安)、B2が同35円安の1,475円(同±0円)であった。景気の先行きが不透明なうえ、相次ぐ自然災害や増税等の影響もあり、前月比・前年同月比ともに全面安の相場展開となった。

和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,690円	93.1%	98.0%
A4 2,380円	93.6%	97.9%
A3 2,180円	94.7%	99.3%
A2 1,932円	89.9%	97.9%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,728円	98.5%	97.9%
B3 1,603円	99.6%	97.3%
B2 1,475円	100.0%	97.7%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 該当なし		
B2 992円	101.5%	104.5%

<11月の牛枝肉相場見通し>

気温の低下にともない売り場では棚替えが進んでいるものの、末端需要は引き続き鈍い状況にある。国内消費が低迷している中での年末商戦に向けた難しい仕入れとなるが、後半に向けて徐々に相場の高まりに期待したい。和牛は上場頭数も多くなるため仕上がりの良し悪しにより等級内格差が顕著になると思われる。交雑牛はやや高値疲れが見られるが、引き続きスズ物中心のしっかりとした相場が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,750~2,850	B4	1,700~1,800
A4	2,400~2,500	B3	1,600~1,700
A3	2,300~2,400	B2	1,500~1,600
A2	2,050~2,150		
乳牛去勢			
B3	1,150~1,250		
B2	1,000~1,100		

小動物事業部

9月の全国と畜頭数は、前年同月比2.0%増の128万6,821頭と前年同月より増加した。豚卸売価格は前年同月より4.3%高の562円、東京は8.0%高の554円、大阪は11.2%高の565円となった。また、9月の豚肉通関数量は、7万8,196t(前年同月比13.3%増)と前年同月を大きく上回った。前月比では8.1%減少。内訳はチルドが2万9,357t(3.6%減)と減少した一方、フローズンは4万8,839t(8.9%増)と増加している。

<10月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	64,100	560	536	833
2日	63,600	525	478	787
3日	63,600	531	469	740
4日	62,200	504	438	910
7日	65,100	480	466	566
8日	67,000	502	477	886
9日	65,900	499	456	680
平均	64,500			772/日

今月から消費税が引き上げられ、消費者の購買意欲衰退による買い控えにから相場は軟調な状態となった。カタロースの動きは良いが、ロース、モモの荷動きは落ち着いた状況となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	67,900	505	487	723
11日	62,500	496	458	849
15日	71,700	518	458	685
16日	71,300	518	477	930
17日	68,400	488	452	819
18日	67,800	486	463	963
21日	73,800	510	478	564
平均	69,057/日			790/日

三連休明けとなった15日以降は大型台風が東日本の広範囲で猛威を振るい、一部産地からの出荷が止まるなどの影響が出たが祝日により稼働日が1日少ないことにより出荷頭数は7万頭前後で推移した。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	74,200	481	461	998
24日	71,100	488	453	875
25日	69,100	496	468	956
28日	67,500	468	456	829
29日	69,300	517	482	938
30日	68,600	474	456	843
31日	67,300	475	459	798
平均	69,585/日			891/日

月初への手当などがみられ、ロース以外の荷動きは良化傾向となった。ロースについては輸入物との競合もあり、引き続き荷動きは鈍い状態が続いた。

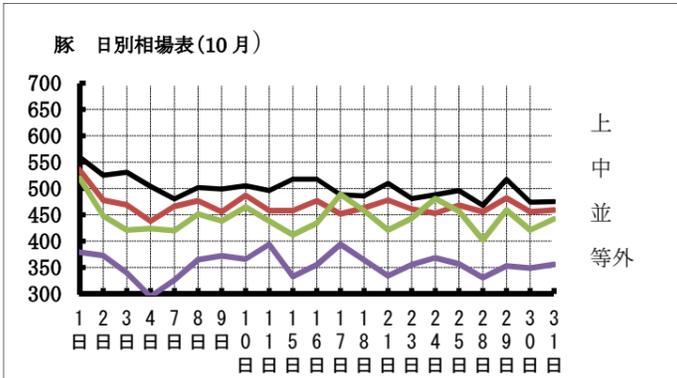
<11月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による11月の肉豚出荷予測では141万6,000頭(前年比95.0%)と予測している。当市場の11月集荷予定頭数は1万8,200頭、1日あたりでは約910頭を見込んでいる。農畜産業振興機構によると11月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万9,000t(同94.8%)、内訳はチルドが3万5,300t(同88.5%)、フローズンは4万3,700t(同100.5%)と予測。

冷蔵輸入量は、輸入業者の買い付け時の国内需要が低調だったことから、前年同月をかなり大きく下回ると予測する。なお、3ヵ月平均では、前年同期をやや下回ると予測する。冷凍品輸入量は、前年同月をやや上回ると予測する。なお、3ヵ月平均では、前年同月をかなり程度上回ると予測する。

【相場見通し】先月までは台風による災害や天候不順、豚コレラのワクチン接種開始など様々なことがあったが、11月はようやく環境が落ち着きそうだ。中旬から下旬にかけて気温が冷え込み鍋物需要による荷動きにも期待がかかる。例年10月から11月にかけての相場は年間を通して底値となり11月後半から12月上旬にかけて徐々に回復し年末相場の展開となるが、疾病や豚コレラなどの影響により今年出荷頭数次第では相場にも影響がありそうだ。

以上のことから当市場の上物。平均価格は450円前後、中物平均価格420円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。